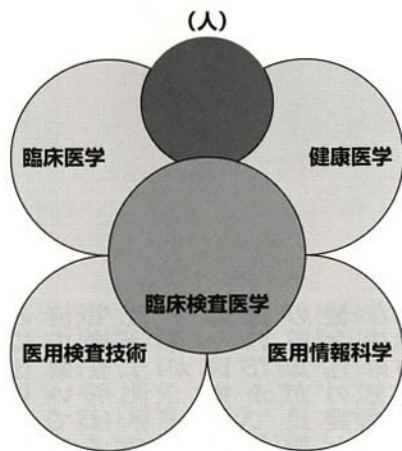


# 認定“臨床検査医とは”

図1 (臨床検査医学の位置)



日本臨床検査医学会 会長  
大場 康寛 氏

現代医療と臨床検査、その関連性と役割を、もっと知りたい。そんな読者の皆様の声にお応えして、今号から「検査のわかるページ」を新設しました。次号からの連載に期待ください。



表1 (認定臨床検査医制度)

<p><b>3者懇談会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学会認定医制協議会</li> <li>● 日本医学会</li> <li>● 日本医師会</li> </ul>	<p><b>日本臨床病理学会</b> 会員 3,500名 (日本医学会分科会)</p>
<p><b>認定臨床検査医審議会</b></p>	
<p>制度の名称: 日本臨床病理学会認定臨床検査医制度                  制度の発足年月: 昭和54年1月                  研修年限: 会員歴5年以上、必須・選択科目、日常業務、学会、論文                  認定方法: 資格審査、筆答、実地試験                  認定更新: 5年ごと、実務、学会、研修、論文など審査</p>	
<p><b>臨床検査医 認定</b></p> <p>(平成11年1月現在 434名)</p>	

私は「臨床検査医」(認定 No. 三三三)です。

ここでは「臨床検査医とは何?」について概説いたしましょう。

▼検査医学は臨床および基礎医学と、図1のようにその周辺学域(化学、理学、生物学、薬学、機械工学、電子工学、情報学など)の専門知識と技術を組合せた臨床検査を駆使して、各種生体情報を収集し、新しい病態把握、病因解明の作法によって、診断、治療あるいは予防医学、健康医学に寄与する臨床医学であり、検査部は検査医学診療の実

践の場であるのです。

▼したがって検査医学は、臨床検査の方法論の開発と活用および検査成績の解釈、吟味の進歩の上に展開され、直接的に臨床と連結するのです。そのために検査医学は新しい医療における新しい診療分野として、学会認定医制協議会の定める基本的領域診療科の一つになっているのです。そしてそこでは、日本臨床病理学会認定「臨床検査医」が専門の担当医として役割を果たしております。(表1)

▼検査医学の診療業務は、臨床検査部内における実践

と、検査診断的思考を基盤とした病態解析であり、したがって実務として、日常臨床検査、至急、緊急検査および特殊検査の管理運営、指導と、各種分析、機能検査(臨床化学、臨床血液、免疫血清、臨床細菌および生理検査など)の成績の解釈、解析、病態診断、病因究明が、診療各科のコンサルテーションを含めて主な仕事となり、これに伴う治療は副務的となります。

▼日常業務に関する一例を挙げると、臨床検査医は、検査管理運営の専任実務担当者として、昨今では検体検査実施料の大幅引き下げを補う措置により、臨床検査医などの専任医配置と十分な管理体制が整備されている総合病院では、検体検査管理加算(入院患者一人につき月一回二〇〇点加算)入院患者一、〇〇〇名では一カ月約三〇〇万円、年間三、六〇〇万円程度の増収、あるいは院内感染防止対策加算(MRSA院内感染対策基準に適合した十分整った設備、体制と、院長、婦長、検査専門医師等による委員会活動により、入院患者一人一日につき五点加算)などをもたらし、病院運営面に大きく貢献しております。

▼このように臨床検査と臨床との接点、接面において、新しい方式の検査医学を導入した診療が展開されるなかで、新しい時代の医学、医療における検査医学を担当するのが専門医「臨床検査医」なのです。